

## 札幌市立常盤小学校の取組【読書：図書館活用授業】

### 1 研究のねらい

図書館を情報の発信源と位置付け、学習活動に積極的に活用する。

- 全校一斉の朝読書の活動、教員による読み聞かせ活動や図書ボランティアによる各学級での読み聞かせなどを行い、読書の習慣を身に付けるとともに、本に親しむ心を育てる。
- 読書や読み聞かせで得た経験を国語の音読や読み取りの学習に生かし、言語力を高める授業を行う。
- 図書館の本を積極的に活用し、委員会活動とも連携し読書活動と読み聞かせ活動を効果的に組み合わせる。また、POP作りや絵本作りなどの活動を行い、読書に対する興味・関心を高める。そして、読書や本の楽しさを子どもに実感させ、読む本の種類の幅を広げ、豊かな心を育てていく。
- 動く図書館を積極的に活用し、読書や図書館への興味・関心を高める。

### 2 取組内容

#### (1) 読書への親しみ

##### ①朝読書の取組

読書習慣を身に付けるため、読書へ親しむために朝読書の取組を行っている。全児童、毎朝登校後 8 時 25 分より 10 分間の読書を行っている。読む本は家から持ってきた本をはじめ、図書館で借りた本、動く図書館（後記）から持ってきた本を活用している。本を読む習慣付けや本に親しむ目的だけでなく、この取組を行うことで朝の時間から心を落ち着けて学校生活をスタートさせている。



##### ②多様な「読み聞かせ」の取組

図書館司書が各クラスに出向き読み聞かせを行っている。子どもは上手な朗読に興味をもち話に聞き入っていた。子ども同士でも、読み聞かせを行った。読書委員会の子どもが中心となり、休み時間に読み聞かせを行った。また、6年生が1年生の世話の際、教室で絵本の音読をする取組を企画した。他に、縦割り活動では、5年生が同じグループの異学年のメンバーに対し読み聞かせを行った。子どもは本を選ぶ時から、どんな本を読めば楽しんでもらえるかと聞き手の顔を思い浮かべながら選んでいた。また、楽しんで聞いてもらえるよう感情を込めて読むなど子どもなりに工夫することができた。



## (2) 図書館の積極的な活用

### ① POP 作りの取組

POP 作りの活動は普段の授業の取組と、夏休みと冬休みの課題としても全学年が取り組んだ。POP はただ掲示するだけではなく、その POP について子ども同士で

コメントを付け合い交流した。交流することで互いに読み合い、他の本に興味をもったり、POP をコメントで褒められることで、読書に対し意欲を高めた。



### ② 動く図書館の設置

動く図書館は、図書館司書を中心とした図書ボランティアの方々にそれぞれの学年で読んでほしい本を選定してもらい、移動式の本棚で教室の前に設置しているものである。図書館に出向くことなく手軽に本を手にすることができ読書に親しむ

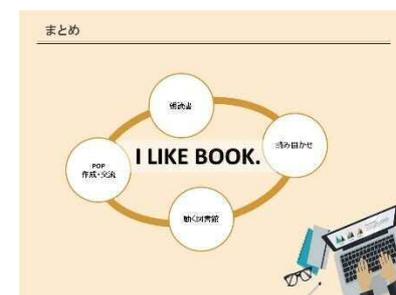
上で非常に有効であった。図書館から足が遠のくことを危惧していたが、シリーズ物を置くことで「この続きが読みたい」、「面白い本が図書館にはあるぞ」という宣伝となり、図書館に足を運ぶ児童が減少することなく読書に興味をもつきっかけとなった。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

これらの取組を行い読書に対する興味の高まりを児童アンケートで確かめた。その結果が右のグラフである。読み聞かせ等で得た経験を活かし、国語の音読の時間等で力を発揮する児童も出てくるなど、今回の活動を行うことで国語の学習面でも成果を上げている。今後もこれらの取組をさらに充実させていきたいと考えている。



### (2) 課題

読書の習慣については、個人差がまだ見られる。朝読書等の時間の補償や習慣づくりのための取組を今後も考えていくことが課題である。